

消防ヒヤリハットデータベース事例情報シート

【事例概要について】



1. 事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリ
2. 体験した事例の名称	400キロの和牛の角で、負傷していたかもしれない事例
3. 体験した事例の中心的要素	鉄柵に『縄』で繋がれた和牛がいる空間に、現場の安全が確保できていない状態で傷病者（和牛の頭部と鉄柵の間に胸部を挟まれ負傷。傷病名：肺挫傷。傷病程度：中等症）と接触しようとした。隊員2名が傷病者に近づこうとした際に、牛が興奮して暴れだしたため、傷病者を残して鉄柵の外側（安全な場所）に出た後、興奮した牛が『縄』を引きちぎり直前まで救急隊員のいた場所へ突進した。幸い傷病者や関係者も無事であったが、救急隊員が鉄柵の内側にいれば、和牛の角で負傷していたかもしれない。
4. 体験した事例の原因・理由	現場にいた従業員全員、緊迫感がなく非常に落ち着いていたため、本来危険な状況下であるが従業員の行動や言動から安全な状況であると誤認したこと。

【体験した事例の直接的な原因について】



1. 体験した事例の直接的な原因	状況判断に問題があった。
------------------	--------------

【体験した事例について】



1. 発生日時	平成 20年 4月 10日 午後 12時頃
2. 発生した当時の天候	晴
3. 発生した活動現場	屋内：牛の畜殺場へと続く繋留場。地面はコンクリート。薄暗く糞尿で滑りやすい。
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	重傷の怪我をしていた（させていた）だろう。
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	その他：和牛の角で負傷
7. 事例体験時の活動	救急、現場活動初期 []
8. （7の活動中） どのような作業中に発生したか	応急処置
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した。

10. 事例体験者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[36]歳、勤続年数[12]年、現場経験年数[12]年、階級[消防士長]、同様の活動[初めて]、任務[車長]
○当事者B	年齢[37]歳、勤続年数[14]年、現場経験年数[14]年、階級[消防士長]、同様の活動[初めて]、任務[機関員]
○当事者C	年齢[23]歳、勤続年数[4]年、現場経験年数[4]年、階級[消防士]、同様の活動[初めて]、任務[隊員]
その他 (当事者が4人以上の場合)	当事者D、年齢[27]歳、勤続[2]年、現場経験[2]年、階級[消防士]、同様の活動[初めて]、任務[隊員]

11. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過1	A B C Dが	従業員に誘導されて繋留所に至った	
経過2	Aが	現場は安全であると判断した	
経過3	B Cが	搬送資器材を取りに救急車へ戻った	
経過4	A Dが	鉄柵の外側（安全な場所）へ出た	
経過5	和牛が	縄を引きちぎり、救急隊がいた場所へ突進した	
経過6			
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			

【その事例発生時の状況について】



○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思えるか？

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思えるか？

後方からの監視の目が行き届いていた。たまたま、事故にならなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	はい
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	はい
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	はい
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

いいえ

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について

現場平面図

